

志の実現に向けて 29

はじめに

新年早々北陸地方で大きな地震があり、甚大な被害が出ています。被災された方々に対しましては、お見舞い申し上げます。

さて、大学入学共通テストが近づいています。地震の影響のため、1月13日（土）、14日（日）の大学入学共通テストの本試験を受験できない受験生に対しては特例措置が講られるようです。すべての受験生が、これまで培ってきた力を発揮することができるよう心から願っています。

「大学入学共通テスト『情報Ⅰ』の設定状況」について

2025年度実施の大学入学共通テストから、教科「情報Ⅰ」が加わります。現在の高校2年生にあたる学年から、「情報Ⅰ」の対応が求められます。そこで、国立大学と公立大学の「情報Ⅰ」の利用について、河合塾のk-netに掲載されていた情報を参考にまとめています。

■ 「情報Ⅰ」の扱いを公表している大学

	国立大学	公立大学
必須	96%	45%
他教科との選択	3%	39%
利用しない	0.6%	16%

※ 2023年10月現在、大学公表の募集区分に基づき一般選抜前期日程で集計

〔共通テスト「情報Ⅰ」の設定状況〕

必須の大学	旧帝7大、筑波大、千葉大、東京工業大、一橋大、岐阜大、神戸大、岡山大、広島大、長崎大、札幌医科大、宮城大、大阪公立大、熊本県立大など
他教科との選択にする大学	北見工業大、富山大（芸術文化）、信州大（人文）、山口大（共同獣医など）、名古屋市立大（経済など）、北九州大（文、外国語）など
課さない大学	金沢大（文系一括、理科一括）、東京都立大（法）、愛知県立大（外国語など）、京都府立大（文、公共政策など）、九州歯科大

国立大学では、ほとんどの大学が必須としており、他教科との選択、「情報Ⅰ」は利用しないとする大学はごく一部にとどまります。一方、公立大学では、「必須」と「選択」がほぼ半々に分かれています。公立大学では6教科8科目を課す大学は2割余りにとどまります。このため、「情報Ⅰ」が選択科目扱いになっている大学が多くなっています。また、「利用しない」とする大学も16%を占めます。

■ 「情報Ⅰ」の配点比（全体）

区分	国立大学	公立大学	全体
配点比が低い（10%未満）	59%	66%	60%
10%（素点利用）	33%	23%	32%
配点比が高い（10%を上回る）	8%	11%	9%

※ 公表138大学のうち6教科8科目を課し、「情報Ⅰ」を点数化する前期日程の募集区分で集計

区分	大 学
配点比率低 （10%未満）の大学 59%	旭川医科大、札幌医科大（医）、東北大、宮城教育大、秋田大（医-医など）、東京海洋大（海洋生命科学など）、東京農工大、横浜市立大、新潟大（法、経済科学、医-医、歯など）、愛知教育大、豊橋技術科学大、名古屋大、名古屋工業大、三重大、京都大（文、法など）、奈良女子大、岡山大、高知大（理工、医-医）、九州大（文、共創、経済、理など）、九州工業大、佐賀大、長崎大 など
配点比率10%の大学 33%	札幌医科大（保健医療）、宮城大、秋田大（医-保健など）、電気通信大、東京医科歯科大、東京工業大、横浜国立大（都市科学-環境リスク共生除く）、新潟大（人文、農、医-保健など）、京都大（理）、京都府立医科大、広島大（経済、理、医など）、九州大（農、薬など）、長崎大 など
配点比率高 （10%未満）の大学 8%	秋田大（理工など）、東京海洋大（海洋工-海事システム工）、東京学芸大（教育-情報教育、中等-情報など）、長岡技術科学大、新潟大（工、創生など）、京都大（工、総合人間など）、神戸大（法、経済、工、農など）、九州大（法、工）、熊本大（医-

	医) など
--	-------

配点比10%未満(他教科より扱いが「軽い」)が主流で、国立大学59%、公立大学で66%を占めます。一方、配点比10%を上回る大学は、国立大学・公立大学ともに少数派です。国立大学・公立大学間で傾向に大きな違いは見られません。

■ 「情報Ⅰ」の配点比(学部系統別)

区 分	文・人文	社会科学	教員養成	理	工	農	医薬保健	その他
配点比が低い(10%未満)	82%	56%	51%	75%	57%	56%	65%	68%
10%(素点利用)	14%	27%	43%	24%	26%	31%	32%	22%
配点比が高い(10%を上回る)	5%	16%	6%	2%	17%	13%	2%	10%

学部系統別でみると、「情報Ⅰ」の配点比10%未満の大学は「文・人文」では8割超、「理」で75%、「医薬保健」「その他」学系では6割台と高くなっています。

■ 「情報Ⅰ」の配点比(国立難関10大学)

区 分	北海道	東北	関東甲信越	東海北陸	近畿	中国四国	九州
配点比が低い(10%未満)	91%	60%	49%	72%	63%	59%	59%
10%(素点利用)	9%	19%	41%	24%	22%	40%	38%
配点比が高い(10%を上回る)	0%	21%	10%	5%	15%	1%	3%

北海道、東海北陸地区では配点比が低い(10%未満)大学の割合が大きくなっています。配点比が10%を上回る区分の割合が高いのは東北、近畿地区です。また、関東甲信越、中国四国、九州地区では配点比10%(素点利用)の区分が4割を占め、他地区より高くなっています。

■ 「情報Ⅰ」の配点比(地区別)

区 分	北海道	東北	東京	東京工業	一橋	名古屋	京都	大阪	神戸	九州
配点比が低い(10%未満)	点数化	100%	0%	0%	20%	100%	54%	100%	51%	74%
10%(素点利用)		0%	100%	100%	0%	0%	4%	0%	0%	17%
配点比が高い(10%を上回る)		0%	0%	0%	80%	0%	42%	0%	49%	9%

北海道大は、「情報Ⅰ」の受験は必須ですが、得点化はしません。合否判定時に成績同点者の順位決定の際、「情報Ⅰ」の成績を活用するとしています。また、九州大(経済-経済経営-後)でも「情報Ⅰ」の受験は必須ですが、合否判定には「情報Ⅰ」を除く上位2教科2科目の成績を利用するとしています。東京大、東京工業大では配点比10%(素点利用)で利用します。一方、東北大、名古屋大、大阪大は、「情報Ⅰ」の配点比を低くしています。一橋大では、配点比が10%を上回る区分が8割を占め、他大より「情報Ⅰ」を重視する姿勢がうかがえます。京都大、神戸大、九州大では学部により対応が分かれました。神戸大(理-物理-前・後)では、「情報Ⅰ」の配点は5点(配点比率1%)と極端に低くなっています。

一方、私立大学は、選択科目としての利用が主流で、方式により課さないケースも見られます。

〔共通テスト「情報Ⅰ」の設定状況〕

区 分	大 学
必須科目として利用	専修大(ネットワーク情報-共通テ併用AS方式など)、日本大(文理-社会-C方式)、南山大(理工-前期6教科型)、藤田医科大(医)、福岡工業大(前期情報型) など
選択科目として利用	北星学園大(一部学部・学科)、東北学院大、青山学院大(一部学部・学科)、学習院大(文-英語英米文化など)、中央大(法、理工を除く)、東京女子大、東京理科大(A方式)、法政大(B方式の一部)、明治大(一部学部・学科)、早稲田大(国際教養、政治経済など)、愛知大、名城大(都市情報など)、京都産業大(理工学部の一部を除く)、同志社大(一部学部・学科)、龍谷大、摂南大、西南学院大(一部学部・学科) など
課さない(利用しない)	東北医科薬科大、学習院大(法、経済、理など)、上智大(文、法、経済 など)、東京医科大、東京農業大、東京理科大(C方式)、法政大(C方式)、大阪医科歯科大、産業医科大 など

※ 共通テスト方式で集計(1大学で学部・学科・方式により設定状況が異なる場合、それぞれ1件として集計)

「情報Ⅰ」については、情報の把握に努めるとともに、志望する大学の状況に合わせて対策を進めていくことが必要です。